

# バンコクの風

ลมจากกรุงเทพฯ

## 日本学術振興会バンコク研究連絡センター 活動報告(2013年1月～3月)



【JSPS-NRCT セミナー「世界遺産とツーリズム」(2013.1.19 実施)】

### センター長挨拶

JSPS バンコクセンターが入居しているビルと同じフロアに、日本学生支援機構タイ事務所(JASSO)、国際交流基金バンコク文化センター(JF)、日本政府観光局(JNTO)がオフィスを構えており、毎月一回ランチをともにしながら情報交流をしております。その4者合同で学術的な事業ができないかと JSPS が提案し、実現できたのが、上の写真にある「世界遺産とツーリズム -持続可能な開発へのアプローチ-」セミナーの開催でした。今後ともこのような協働事業の実施を続けていきたいと思っています。

今期の大きな動きとして、フィリピンでの JSPS 同窓会設立が現実化したことがあげられます。論博取得者のみの同窓会であったのですが、それ以外の JSPS フェローを加えての本格的な同窓会の設立となりました。5月中には本部に認可申請が出される予定です。また、同窓会間の交流の促進ということで、タイ同窓会の総会時に、中国同窓会の会長を招き、今後の二国間(日本を入れて3か国間)の交流を図ることで合意したことは大きな成果だと思います。

2013年4月吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長 山下邦明

## 主な活動と目次

### 1月

11日	九州大学・早稲田大学 大学の世界展開力強化事業キックオフシンポジウムに参加	P. 4
19日	JSPS-NRCT セミナー「世界遺産とツーリズム」を実施	P. 3
20日	第二回日本留学&日本企業就職フェアに出展	P. 4
21日	お茶ノ水女子大学 小田助教の来訪	P. 4
〃	東京農工大学 百鬼副学長の来訪	P. 5
22日	名古屋大学 AC21 推進室 井戸講師の来訪	P. 5
30日	タイ研究財団(TRF)を訪問	P. 5
30日	文部科学省高等教育企画課 佐藤専門官の来訪	P. 7
31日	ウボンラチャタニ大学表敬訪問及び JSPS 説明会の実施	P. 6

### 2月

1日	日本学生支援機構(JASSO)金城課長の来訪	P. 7
8日	タイ同窓会総会及び論博メダル授与式を開催	P. 8
14日	京都大学大西総長特別補佐の来訪	P. 7
18日	九州大学大村国際部長の来訪	P. 9
26日	バングラデシュ同窓会新旧役員交代式、FY2013 ブリッジフェロー選考委員会へ出席	P. 9
27日	京都大学学術研究支援室(URA 室)の来訪	P. 9

### 3月

1日	京都大学大学院経済学研究科 久野教授の来訪	P. 10
4日	JSPS フィリピン同窓会(JAAP)を訪問	P. 10
12日	九州大学医学研究院・マヒドン大学セラセミア研究センターの来訪	P. 10
13日	中央大学 若林副学長の来訪	P. 11
28日	広島大学理学研究科、医歯薬保健学研究科の来訪	P. 11
29日	東京医科歯科大学 竹本教授の来訪	P. 11

コラム#1   ダイスケさんのダイ好きアジア                   P. 12

コラム#2   カイさんのタイご案内                               P. 13

## ■JSPS-NRCT セミナー「世界遺産とツーリズム」を実施（1月19日）

<http://jsps-th.org/?p=4285>



【前列左から NRCT Pimpun 部長、Sobho 社会科学研究顧問、Pankhoynangam 事務次長、UNESCO Bangkok Office Unakul 氏、服部教授。後列左からセンター長、JASSO 山本所長、JF Wathana 氏、依書記官、IUCN Dr. Chamniern、西山教授、JF 内田副所長、福田所長】

バンコクセンターは、2013年1月19日、JSPS-NRCT Seminar「World Heritage & Tourism –an Approach to Sustainable Development–」をバンコク市内の Royal Paragon Hall で開催しました。本セミナーは、タイ科学会議(NRCT)と共催し、在タイ日本大使館に後援いただいています。今回のセミナーでは、世界遺産とツーリズムをテーマとし、ESD(持続発展教育)について、世界遺産教育を通じて理解してもらうこと、また日タイでのツーリズムのあり方等についての講義・議論を通じて、日タイの研究者間のネットワークの形成・強化を目的とすることを目的としています。

また、バンコクセンターと同じフロアにある日本学生支援機構(JASSO)、日本政府観光局(JNTO)、国際交流基金(JF)とともに、日本の主管庁が異なる4機関が連携して実施する初めての企画となりました。在タイ研究機関の研究者、学生を合わせて125名の参加がありました。

本セミナーの共催者であるNRCTの Pankhoynangam 事務次長、後援いただいた在タイ日本大使館の依一等書記官が挨拶を述べ、引き続き、午前中は英語による講演が行われ、ユネスコバンコクオフィスの Ms. Montira Horayangura Unakul Culture Programme Officer が”World Heritage: an Overview”について、北海道大学観光学部の西山教授が”Tourism and Heritage Management”のタイトルで講演を実施しました。

午後からは、チュラロンコン大学教育学部の Athapol Anuntavorasakul 助教が“Education for Sustainable Development”について、International Union of Conservation of Nature (IUCN) タイ代表である Dr. Chamniern Paul Vorratnchaiphon が”Approach to Sustainable Society in Thailand”のタイトルでタイ語の講演を行い、アカデミックセッションの最後には、元ユネスコ事務局長シニアアドバイザーで、麗澤大学客員教授である服部教授のまとめセッションが行われました。

その後は、「Yokoso Japan」と銘打って、日本政府観光局 バンコク事務所 天野泉次長、国際交流基金(JF)バンコク日本文化センター Wathana Onpanich 氏、日本学生支援機構タイ事務所 山本剛所長よりそれぞれの事業についてタイ語により講演いただきました。

今回のセミナーは、山下センター長が就任してから企画した初めてのセミナーであり、ESD(持続発展教育)と世界遺産というセンター長の専門性を活かした企画となりました。また、本セミナーは同時開催されていた日本留学・就職フェアと併催されており、相乗効果もあって多くの参加がありました。



## ■九州大学・早稲田大学 大学の世界展開力強化事業キックオフシンポジウムに参加（1月11日）

<http://jsps-th.org/?p=4177>



九州大学・早稲田大学「地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協同教育プログラム(大学の世界展開力強化事業)キックオフシンポジウムに参加しました。

九州大学大学院工学研究院は、早稲田大学創造理工学部、チュラロンコン大学(タイ)、バンド

ン工科大学、ガジャマダ大学(以上インドネシア)、フィリピン大学(フィリピン)、マレーシア科学大学(マレーシア)、ホーチミン市工科大学(ベトナム)、カンボジア工科大学(カンボジア)で、本事業を推進しています。

プログラムは、1)国際インターンシップ、2)スクールオンザムーブ、3)ダブルディグリーを三つのビルドプログラムとし、それぞれのプログラムの質を保証しながら、日本・ASEAN を中心に世界で活躍するグローバル人材の育成を目的としています。

## ■第2回日本留学&日本企業就職フェアに出展（1月20日）

<http://jsps-th.org/?p=4229>

前日に実施された世界遺産セミナーに引き続き、バンコク市内で開催された第2回日本留学及び日本企業就職フェアにブース出展を行いました。本フェアでは、二日間で7,500名の来場者がありました。

本来のフェアの主旨とJSPSの対象者は若干異なりますが、就職先の一環として、また将来研究者を希望される学生に対して、JSPSの存在を認知してもらうことは、大いに意義があります。

他方、留学フェアや日本留学説明会にJSPSも積極的に参加することで、JSPSの活動だけでなくイベントの幅が広がっています。今後も、幅広い活動を実施していく予定です。



## ■お茶ノ水女子大学小田助教の来訪（1月21日）

<http://jsps-th.org/?p=4198>



小田助教はJSPS「組織的な若手研究者等海外派遣」事業の助成を得て、2012年12月から2013年2月までの3か月間、アジア工科大学院大学(AIT)防災減災管理研究プログラム(DPMM)において、東日本大震災に関する地理学的調査研究や復興支援にかかる活動について講義を行っています。

宮城教育大学の出身で、ESD(持続発展教育)を普及するためのユネスコスクールを支援する大学間ネットワーク(ASPUUnivNet)の幹事校を宮教大が引き受けていた頃、山下センター長(当時九州大学)も関係しており、小田先生は、現在もなおこのネットワークの中で活動されている話で盛り上がりました。

## ■東京農工大学 百鬼副学長の来訪（1月21日）

<http://jsps-th.org/?p=4188>



今回の来訪では、東京農工大学で採択されているリーディング大学院プログラムについて説明がありました。

「食料生産」をキーワードとして、日本からタイに向けて大学院生を派遣して、インターンシップを実施するとともに、タイの研究者を農工大に招へいし、交流を図るとのことで、今後の協力依頼が JSPS 及び JASSO にありました。

JSPS からは、JASSO の協働状況について説明するとともに、最新の活動状況について紹介しました。

【左から Nelson Officer、夏教授、JASSO 山本所長、百鬼副学長、センター長、鈴木専門職、河井教授】

## ■名古屋大学 AC21 推進室 井戸講師の来訪（1月22日）

<http://jsps-th.org/?p=4201>

国際学術コンソーシアム (Academic Consortium; AC21) は、2002 年 6 月 24 日に開催された名古屋大学国際フォーラムにおいて、世界の 24 主要大学・教育研究機関の学長および代表者が参加し、世界の教育・研究・産業組織により構成された国際的な学術ネットワーク構築を目的として設立されました。

今回の来訪については、AC21 の事業説明及び、2013 年 5 月にバンコクで実施される AC21 国際スクリーニングにかかる当センターの協力にかかる依頼がありました。

【左からセンター長、井戸講師、久田掛長】



## ■タイ研究財団 (TRF) を訪問（1月30日）

<http://jsps-th.org/?p=4237>



大阪大学バンコク事務所長関達治教授の紹介で、日本大使館俵幸嗣一等書記官、JASSO バンコク事務山本剛所長と山下センター長で、タイ研究財団 (TRF: Thailand Research Fund) を訪問しました。それぞれの機関の活動紹介・情報交流の後、今後の協力関係について意見交換しました。

TRF から JSPS バンコク事務所に対しては、日タイの研究者交流の促進、タイ人のポスドクフェローへの研究支援方策などについて今後打ち合わせを重ねていきたいとの要望が出され、山下センター長も了承しました。

【左より阪大関所長、JASSO 山本所長、俵書記官、Dr. Vudhipong, Dr. Amaret、センター長、Dr. Kosan】



## ■ウボンラチャタニ大学表敬訪問及び JSPS 説明会の実施（1月31日）

<http://jsps-th.org/?p=4206>

2013年1月31日(木)、ウボンラチャタニ大学で実施された在タイ日本大使館主催地方留学説明会に参加し、その一環として JSPS 事業説明会を実施しました。



ウボンラチャタニ大学 Assoc. Prof. Dr. Nongnit Teerawatanasuk 学長を表敬訪問し、会談した後、留学説明会とは別会場で、JSPS の事業説明会を実施しました。会場は約 20 名の研究者、大学院生が集まり、山下センター長が事業紹介のプレゼンテーションを行った後、ウボンラチャタニ大学の JSPS 同窓会メンバーである Dr. Bubpa Chaitieng 及び Dr. Kreingkrai Choprakarn に日本での研究の経験について、講演いただきました。

今回の事業説明会は、センター長による事業の説明だけでなく、以前 JSPS の制度を利用して渡日された研究者からの講演を実施することによって、JSPS のプログラムに興味を持っていただいた研究者に対して具体的な情報提供が出来るようになったと思います。今後も、事業説明会をする際は、積極的に同窓会員を招へいして、講演を依頼することを考えています。



在タイ日本大使館が主催する地方留学説明会は年に四大学で実施されています。今後も当センターとしては大使館、JASSO、各大学との連携を積極的に進めていく予定です。

### ■文部科学省高等教育企画課 佐藤専門官の来訪（1月30日）

<http://jsps-th.org/?p=4258>



文部科学省高等教育企画課では、大学の世界展開力強化事業を担当されており、日本の大学の国際化、大学生の派遣、日本の高等教育のプレゼンスの向上といったことを目指しています。

佐藤専門官からは当センターが果たすべき役割について、ビザ取得の支援、世界展開力強化事業を担当している先生方とのネットワークの提携、JASSO や JETRO との連携・支援、またレベルの高い学生獲得のための高校の開拓、といった意見をいただきました。

【左から JASSO 山本所長、佐藤専門官、センター長】

### ■日本学生支援機構（JASSO） 金城課長の来訪（2月1日）

<http://jsps-th.org/?p=4265>

今回の訪問では JASSO 本部と JSPS 本部での連携状況についての報告が金城課長よりありました。

当センターからは、JSPS における第三期中期計画における国際戦略、特に海外センターのあり方について報告を行いました。

今後の具体的な連携案として、JSPS 同窓会と JASSO の連携による留学ガイダンスや元留学生会との交流について、意見をいただきました。

当センターの JASSO との連携状況は JASSO と JSPS の連携推進における好事例として JSPS 本部にも報告されています。今後も、出来る限りの連携を推進する所存です



【左から副センター長、センター長、JASSO 金城課長、遠藤職員、山本所長】

### ■京都大学 大西総長特別補佐の来訪（2月14日）

<http://jsps-th.org/?p=4271>



今回は、京都大学の同窓会及び第 13 回京都大学東南アジアフォーラムの実施のためタイに訪問されました。

センター長より概要の説明を実施した後、主に同窓会活動について意見交換が行われました。当センターはタイ同窓会、バングラデシュ同窓会を担当していますが、近年、世界的な潮流に合わせて同窓会の存在価値が高まってきており、同窓会を通じての日本との交流をどうするか、同窓会員の情報収集方法といった点について京都大学も模索中であるとのことでした。



## ■タイ同窓会総会及び論博メダル授与式を開催（2月8日）

<http://jsps-th.org/?p=4458>



2013年2月8日（金）、バンコク市内にて、JSPS タイ同窓会（JAAT）総会及び JSPS-NRCT RONPAKU Medal Award Ceremony を開催しました。論博メダル授与式は、論文博士号取得希望者に対する支援事業により、2各年度に博士号を取得された研究者の方々に、その栄誉をたたえるとともにより一層の研究を奨励することを目的として、メダルを授与するもので、毎年 NRCT と共催しています。

今回の式典に、JSPS 中国同窓会長である余翔华中科技大学 管理学院教授を招へいし、同窓会総会では中国同窓会活動の紹介、また論博メダル授与式では、“International cooperation and its importance for the academic careers of young scholars”のタイトルで、余教授のドイツ、日本での研究活動を通じての経験、とりわけ若手研究者の国際交流とその先の連携を推進する重要性について、講演いただきました。

【講演される余翔中国同窓会長】



タイ同窓会総会では、中国同窓会長の余教授からの中国同窓会活動の紹介の後、タイ同窓会長の Dr. Busaba Yongsmith からの一年間の活動報告があり、その後意見交換の場が設けられました。

その後の論博メダル授与式では、在タイ日本大使館より長谷川哲夫一等書記官、NRCT より Mrs. Kanchana Pankhoingam 事務次長にご挨拶いただきました。この他、NRCT からは Dr. Jintanapa Sobhon 社会科学研究顧問のほか、理事をはじめとする JSPS タイ同窓会（JAAT）メンバーが複数参加し、新たに博士号を取得された3名の栄誉をたたえました。

上述の通り、今回は3名の新規博士号取得者があり、その内 Dr. Sorasun Rungsiyanont、Dr. Khajadpai Thipyapong が本セレモニーに参加し、JSPS 加藤久 国際事業部長よりメダルが授与され、その後それぞれのメダル授与者による博士論文の発表が行われました。

今回、バンコクセンターとしての新しい試みとして、中国より同窓会長をバンコクに招へいし、各国同窓会ならびに日本との連携・交流を推進することを目指しました。2013年度は、タイの同窓会長が中国同窓会に参加する予定です。同窓会間の交流を通じて、日本、タイ、中国の三カ国間での連携が推進されるよう、協力していく所存です。



## ■九州大学 大村国際部長の来訪（2月18日）

<http://jsps-th.org/?p=4277>



【左から大村部長、轟職員、センター長、大村掛長、JASSO 山本所長】

大村部長には、2012年12月に実施されたバングラデシュ同窓会シンポジウムの際にも来賓として参加いただいたり、センター長も九州大学への出張時に訪問する等、緊密な交流を実施しております。

今回の訪問に際しては、タイにおける九州大学の幅広い情報収集ということで、九州大学の国際事業の説明、当センター事業紹介について次期中期計画を含めて行い、幅広い意見交換を実施しました。当センターが今後求められるミッションとしての大学や関係組織との連携、幅広い地域をターゲットとした活動をしていくに際し、各関係機関とのネットワークの構築と活用の重要性について、意見をいただきました。

## ■バングラデシュ同窓会新旧役員交代式、ブリッジフェロー選考委員会へ出席（2月26日）

<http://jsps-th.org/?p=4508>

2013年2月23日、バングラデシュ同窓会新旧役員交代式、Bridge Fellow 外国人研究者再招へい事業）選考委員会へセンター長が出席しました。

Bridge Fellow の選考では、応募者5名から3名を選出しました。

また、バングラデシュ同窓会理事は、Nayyem Choudhury 会長、Islam 事務局長から Afsal Hossain 新会長、Kondhoker 新事務局長に交代することに伴い、理事の半数が入れ替わりとなりました。



【左からセンター長、Islam 事務局長、Choudhury 会長、Hossain 新会長、Kondhoker 新事務局長】

## ■京都大学学術研究支援室(URA 室)の来訪（2月27日）

<http://jsps-th.org/?p=4485>



【左から富田係長、副センター長、センター長、田中室長、白井リサーチ・アドミニストレーター、園部リサーチ・アドミニストレーター】

URA(University Research Administrator)は、研究支援に関わる業務を担う専門家として大学に配置され、研究者が研究活動に専念できる環境を整備するために研究プロジェクトの企画・運営、研究成果の社会還元について支援を行います。

今回の出張は、シンガポールとタイの大学における URA 制度の視察を実施したとのことです。

本センターの訪問では、日本の大学における URA 制度の紹介を実施するとともに、京都大学が ASEAN 幹事校となった大学の世界展開力強化事業について、京都大学のプログラムの紹介及び今後の連携について意見交換を実施しました。

## ■京都大学大学院経済学研究科久野教授の来訪（3月1日）

<http://jsps-th.org/?p=4492>



【左から矢野さん(M1)、Lambino コーディネーター、センター長、Thongpoon さん、片野さん(以上 M1)、JASSO 山本所長、副センター長】

久野教授は、大学の世界展開力強化事業「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成—（構想責任者：京都大学文学研究科 落合恵美子教授）の推進について担当されています。

本プログラムでは、SEND プログラムを通じた異文化理解交流教育をきっかけに、段階的に連携を進め、最終的にはアジアのトップリーダーの育成を図ることを目的としています。具体的には、学部生は短期 SEND プログラムの実施及び異文化理解交流教育の実施、学部生後半から修士課程には、国際連携専門教育及び長期 SEND 基礎トレーニングの実施、そして大学院博士課程には、国際連携研究指導及び長期 SEND プログラムを実施する予定です。

## ■JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) を訪問（3月4日）

<http://jsps-th.org/?p=4648>

デ・ラサール大学 (De La Salle University Manila) にフィリピン同窓会 (JAAP: JSPS Alumni Association of the Philippines, Inc.) 会長の Dr. Maricar S. Prudente を訪問し、メンバー8名および JSPS のカウンターパートである DOST 関係者と活動報告および JSPS の公式同窓会移行への検討を行いました。

今後、4月に設立準備総会を行い、役員任命、政府への登録、その後 JSPS 本部への正式な登録書類の申請を行う予定です。



## ■九州大学医学研究院・マヒドン大学セラセミア研究センターの来訪（3月12日）

<http://jsps-th.org/?p=4503>



九州大学医学研究院保健学部部門の梅村創教授、マヒドン大学セラセミア研究センターの前所長の Suthat Fucharoen 教授、現所長の Dr. Saovaros Svasti、Dr. Supat（マヒドン大学熱帯医学部）、九州大学医学研究院勝田仁講師、二宮潤治事務局学生係長（元バンコク副センター長）が来訪されました。

梅村教授は、長年 Suthat 教授などと一緒にサラセミアやマラリアの新規診断や治療法を共同研究されており、その縁で、九大医学部では、G30 プログラムの一環で、来年から国際保健学コースの博士課程を開設し、タイから学生を募るとのことです。

Suthat 教授は、マヒドン大学の人事評議会委員もされている影響力のある先生で、JSPS の諸活動、特に研究拠点形成事業 (Core-to-Core Program) に関心を示されました。



### ■中央大学 若林副学長の来訪（3月13日）

<http://jsps-th.org/?p=4546>



【左から JF 平林部長、佐々木准教授、若林副学長、長谷川教授、JASSO 山本所長、副センター長】

中央大学は、平成 24 年度グローバル人材育成推進事業に採択され、SEND プログラムを通じて、タマサート大学、カセサート大学へ短期留学、海外実習プログラムで学生を派遣する予定であり、今後チュロンコン大学とも連携していくこと、またグローバル人材育成プログラムの一環として、2013 年 5 月にバンコクでシンポジウムを実施する予定です。中央大学としては、本事業を推進するにあたり、バンコクを拠点の一つとして実施していくことを視野に入れています。

### ■広島大学理学研究科、医歯薬保健学研究科の来訪（3月28日）

<http://jsps-th.org/?p=4553>

広島大学の小原政信理学研究科教授、加藤功一医歯薬保健学研究科教授ならびに村上弘幸・理学研究科主査の訪問がありました。今回の訪問については、2013 年 1 月に訪問のあった文部科学省高等教育局佐藤邦明専門官のアドバイスによるものです。

訪問の目的は、まもなく募集が始まる第二期「大学の世界展開力強化事業」に応募するに際して、タイの学生及び日本に留学していた学生の就職状況やタイ全般についての調査ということで、それらの情報に詳しい日本学生支援機構（JASSO）の山本剛所長にも同席いただいた上対応しました。



### ■東京医科歯科大学 竹本教授の来訪（3月29日）

<http://jsps-th.org/?p=4568>



東京にある4大学（東京医科歯科大学、お茶ノ水女子大学、学習院大学、北里大学）は、2009 年 3 月に「学際生命科学東京コンソーシアム」を設立し、4大学間における単位互換や研究指導、専門共通カリキュラムの開発そして学生、教員及び研究者の相互交流を実施してきました。

その実績を基に、この度、課題発見・解決型 Ph.D プログラム「疾患予防科学コース・領域」を開設することになり、そのコースへのアジア諸国からの入学者（修士修了者、社会人など）募集に際しての効果的な方法などについて JSPS 及び JASSO への協力依頼がありました。

## ダイスケさんのダイ好きアジア



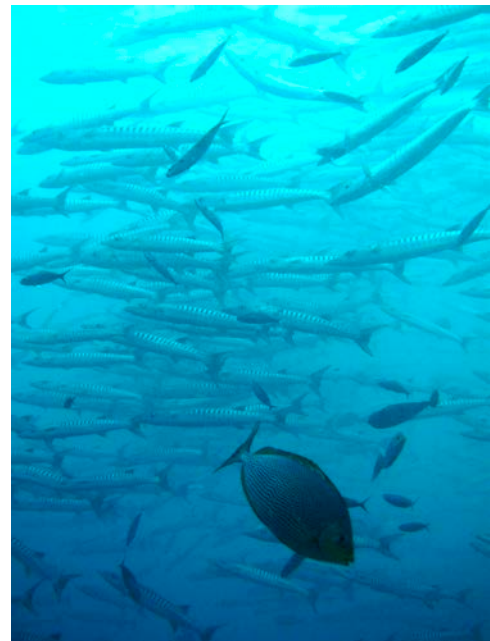
### アンダマン海のサンゴの白化現象

サワッディーカップ。  
BKK 副センター長のヤマダダイスケです。

タイ西部、インド洋側・アンダマン海にあるシミラン諸島はダイビングのメッカで、様々な生物多様性を楽しむことができます。欧米や日本からも多くのダイバーがシーズンになると訪れます。

ところが、今アンダマン海の珊瑚礁は危機に陥っています。一体何が起きているのでしょうか。

今年2月に、このアンダマン海に行ってきました。ダイビングという思い浮かべるのが美しい珊瑚礁という人は多いと思います。ですが、潜ってみて気がついたのはアンダマン海の珊瑚礁がかなりの部分白くなって死滅してしまっていました。



ジャイアントバラクーダの大群

かつては、さぞや綺麗だったであろう珊瑚礁に何が起ったのか、タイ国立公園管理当局によると、タイ南部の15,000ヘクタールに及び珊瑚礁が白化（ブリーチング）し、またサンゴ本来の色を失っているとのことで、長期間の海水温上昇によって引き起こされたとしています。写真を見て戴ければ分かるように、白い死滅した珊瑚が累々と広がってしまっています。



サンゴの白化は、高い水温、強烈な太陽光や塩分濃度の低下といったストレスに晒されることによって起こります。海洋環境保護団体は、観光客による行動が原因としていますが、当局は海水温上昇が原因としています。

しかしダイビングというレジャーは必ず幾ばくかの自然を傷つけることになりま。その一方で、ダイバーは多くのお金を現地に落としており、国立公園管理当局にも相当の入園料を支払っているのも事実です。タイの美しい自然を守りながらも、いかに自然と共生していくことが

出来るかを、我々は考えなければなりません。

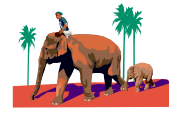
今年、バンコクセンターではESD(持続発展教育)をテーマとしたシンポジウムを実施する予定です。この白化現象は一つの例ですが、生物多様性の重要性をもう一度提起したいと思います。

Ambika Ahuja "Thailand closes dive sites to halt damage to reefs" Reuters. Jan 20, 2011  
<http://www.reuters.com/article/2011/01/20/us-thailand-reefs-idUSTRE70J1R120110120>





## カイさんのタイご案内



### コラム#2

#### 有名なタイの幽霊『ナンナーク』

タイの一番有名な幽霊が「ナンナーク（ナーク夫人）」です。ナンナークの幽霊の映画がよく作られます。私は子供の時ナンナークの映画を見たことがあります。とても恐ろしい映画だと思いました。

ナンナークのストーリーは実話です。昔ナークは夫のマークと結婚しました。家はプラカノー区(現：バンコク市)に住んでいました。ある日、マークが徴兵されて家に出ました。その間にナークは一人で暮らしていましたが、難産でお腹の子供とともに亡くなりました。マークへの強い愛情を抱いていた ナーク は幽霊に なって夫の 帰りを 待ち続けました。

徴兵を終了して家に戻って来たマークは、ナークの事を何も知らないまま、ナークと幸せに生活しました。その後友人からナークが亡くなったことを聞いたもののまったく信じませんでした。しかし、ある日、マークはナークが臼と杵で唐辛子を砕いているときに落ちた杵と取るために、尋常の人間ではできないほど長く手を伸ばし、縁側に腰掛けたまま杵を取り上げたのを見てナークが亡くなった話が本当だったことに気づき、とても驚きました。幽霊にナークを退治するために僧侶や 村人と 共に ナークを 追い込んでいきました。夫にとっては 幽霊とはいえ 愛する妻ですが、最後にナーク を 退治する 時が やって 来ました。

それから男性は徴兵されないようにワットマハーブットのナンナークが祀られている神社に祈るようになりました。

今は最新版「ピーマークプラカノー」が上映されています。どの映画がより怖いか見て下さい。

註：この映画は現在大ヒット中で、4/30 時点でタイ国内の過去最高の興行収入を突破する勢いで、海外でも上映が開始されるとのことです。日本での上映は未定ですが、その日が来るのをお楽しみに。



1991年のナンナーク



上映中のピーマークプラカノー

※カイさんのタイご案内は、バンコクセンター現地スタッフのMs. Aunchalee Suksurangkul (通称カイ) さんによるものです。カイさんは2013年5月22日付けで当センターを退職することとなり、今回のコラムが最後となります。約2年間本当にありがとうございました。

## ■全てのタイの大学は独立すべき

2012年12月25日、Phongthep Thepkanjana タイ教育大臣はタイの大学の自治化への組織改革の進捗状況について、タイ高等教育委員会(OHEC)に提出された政府大学改革案に満足していると述べた。Suan Sunandha Rajabhat 大学及びタマサート大学の学生による反対意見については、大学の自治化による学生の財政負担増加に対して一定の理解を示したものの、タイの大学の状況が変化することによって負担は増えるがその分質も向上するだろうとしている。

Suan Sunandha Rajabhat 大学学長による、全ての大学の教員を公務員とする案については、タイ政府は公費による支出を減額する方向であり、不可能であるとのことの見解を示した。

Somkid Lertpaithun タマサート大学学長は、下記のように述べている。「この問題を明確にするために、同大学 Rangsit キャンパスで学生及び一般市民に対する集会を実施予定である。大学の地位の変更は学費の増額には繋がらない。2年前、タマサート大学が学費を値上げした際、マヒドン大学とチュラロンコン大学は完全に独立した大学であるにも関わらず、学費値上げは実施しなかった。」

(1月2日 タイ教育省)

## ■2013年におけるタイ王国教育枠組みについて

Phongthep Theokanjan タイ教育大臣及び教育省幹部、教育省アドバイザー及び政務官は、2013年の教育枠組みについて以下の通り述べた。

### ・学習指導カリキュラムの修正

2013年、タイ教育省は教育カリキュラムの修正をいくつかのワーキンググループに責任を分担させて、真剣に実施する。

例えば、他の国での成功事例、特にアメリカでの学習者の要望に応じてデザインされた成果ベースの教育についての分析に基づく新たな教育システム設計について模索する。

また教科書についても、カリキュラムに沿った形で作成されるべきである。一方で、17社の教科書出版業者が競争して高品質の教科書を作成す

るよう、タイにおける教科書市場は自由化するべきである。

タブレット PC の使用は教育改革につながる学習方法の近代化の手法の一つである。タイ教育省は、今年中に学生がタブレット PC を用いて学習のすることが出来るサイバーホーム政策を完了させる予定である。

政府の方針に従って、タイ教育省は関係機関でのパブリック・フォーラムを実施し、意見交換を行う予定である。

しかし、あくまでも学習指導カリキュラムの改革は、これまでに提示されている主要な課題について実施するかどうかを熟慮すべきである。なぜなら、過去10年間で様々な教育改革や教育コンセプトの創出が行われてきたからである。タイの学生は教室内でじっくりと、教室外においては独力で分析的に考えることに時間をかけ過ぎている。つまり、これらのスキルを伸ばすための課外活動を推進させるべきではないかと教育大臣は考えている。

教育アドバイザー Phawit Thongrot 教授は付け加える。タイの近代的教育システムと全てのカリキュラムをデザインするための4つの委員会が立ち上げられ、いくつかの主要課題がカリキュラムに含まれるべきであるかを議論する。というのは、作文やアイデアの要約といった有用な科目が現在の学習過程に含まれていないからである。これは、学生の読解力、理解力の不足をもたらしている。

新しい教育制度をデザインする委員会とは別に、教科書の内容のデザインと主要教科の検討のために適任な人材が求められている。タイの学生が教科書を読んだ後にあるべき姿について議論するような内容であるべきである。最後に、学校や学生、教師のための説明を実施する委員会も設置予定である。

### ・職業訓練学生の増加

2016年末までに、職業訓練校の学生の割合を普通教育のそれと50:50にすることとしている。また、職業訓練校の学生は学士レベルの学位を取得することが出来ることとする。このため、職業訓練教育を改革し、教育省は企業と連携して、卒業後に企業が求める人材の育成を目指す。学生は、大学で学ぶ傍ら、企業においてパートタイムで働くことも可能となる。また、学生数を制限し、職業訓練教育における質をより重視する。教育省は職業訓練機関を代表して、タイ職業教育委員会事務局長による勧告案を作成する。



#### ・国の公共部門への人員配置

最近では、公務員、政府職員、大学の教職員が公共部門の人員に含まれるが、人件費の抑制にかかわらず予算は非常に高い。結果として、公共部門の人員は効率的に利用されるべきである。

また、生徒数が 60 名以下の小さな学校の統廃合は、人的資源の有効活用に繋がる。

(1月8日 タイ教育省)

### ■タイ・日本合同の洪水防止システムの開発

タイ王国灌漑局と国際協力機構（JICA）はタイ中部アユタヤ県にて工業団地のための洪水防止システムの共同開発を実施することになった。

タイ王国灌漑局の Lertviroj Kowattana 局長はアユタヤ県において水門を 2 カ所建設する合意文書にサインした。この地域の工業団地の洪水防止のために非常に重要である。日本の工場は 2011 年のタイ大洪水で深刻な被害を受けた。日本政府は 2 カ所の水門を建設するために約 10 億バーツを無償提供し、JICA が本事業を担当することになった。

水門の建設は、パーサク川におけるアユタヤの洪水防止計画の一部となる予定である。

(1月17日 MCOT.net)

### ■タイ・マレーシアによる農業及びバイオテクノロジー分野の協力関係を強化

タイ王国科学技術大臣はマレーシア・クランタン州農業、地方産業、バイオテクノロジー委員長と会談した。目的は農業とバイオテクノロジー分野での連携強化のためである。

クランタン州の Haji Che Abdullah Bin Mat Nawi 氏はパトゥムタニーにあるタイサイエンスパークにて Woravat Auapinyakul 科学技術大臣と対談し、その後微生物及び遺伝子研究所を訪問した。

タイの生物多様性は国の強みであり、微生物研究の中心で、農業や医学ワクチンに有用な世界のウイルスの株や微生物を保有している。大臣と委員長は、民間部門だけでなく、政府間の協力についても議論を行った。

マレーシアは微生物を有害生物駆除に利用することに興味を持っており、タイの遺伝子組み換え

作物研究開発について尋ねた。タイ側は、マレーシアが遺伝子組み換え作物に関する法律を策定しているのに対し、タイ側はまだ研究室での実験レベルであると述べた。

両国は、今後も地域のバイオテクノロジーの基盤作りのために共同研究を推進していくこととなった。

(1月17日 MCOT.net)

### ■タマサート大学・ASEAN 共同体に向けて準備

2013 年 1 月 28 日、Somkid Lertpaitun タマサート大学学長は 2013 年の将来構想に関連して、下記の 3 つの局面について改善を行う予定であると述べた。

一番目は、ASEAN 共同体 に向けて国際化を図ることである。学部、修士、博士課程において英語コースを増加させる。学部では自動車工学、コンピューター工学及びインド研究、修士課程においてはコンピューター工学及び ASEAN 研究、博士課程ではエネルギー及び環境マネジメントのコースが開講する予定である。2014 年には、医学及び法律についても英語で授業が受けられるコースを開講予定である。

二番目には、教員一人あたり平均 100 万バーツが配分されている研究大学としてのタマサート大学の役割に関することである。2017 年には、本交付金は 2 百万バーツになる見込みである。その上で、研究を一層推進するために、大学は医薬開発センター、動物実験施設や科学設備を設置する予定である。

最後は、大学のアイデンティティの開発である。タマサート大学は社会意識の高い卒業生を育成している。全ての学生は TU100 という社会的責任を果たすためのコースを受講しなければならない。その上で、学部課程における政治学及び経済哲学の課程が改善される予定である。

(1月31日 タイ教育省)

### ■テクノロジーテーマパークの設立準備

東南アジア初と謳われている「テクノロジーテーマパーク」の設立が Woravat Auapinyakul 科学技術大臣によって予定されており、議会に対して 2014 年度に約 440 億バーツの概算要求を行う予定である。

産業の振興を目的としたタイ首相の命により、科学技術省の予算は前年度から3倍となった。

ユニバーサルスタジオを想像して欲しい。娯楽に満ちたアトラクションは観客に新しいテクノロジーを提供し、ASEAN 周辺諸国での競争力を強化するだろうと、大臣は述べた。

しかしユニバーサルスタジオのようなテーマパークを建設するには巨額のコストがかかる。政府は道路や建物、様々な技術、また PTT、SCG、CP、トヨタといった企業を誘致し、新たなテクノロジーを提示する。テーマパークの計画は既に準備され、2、3 年以内には完了する予定であるとのことである。

他の積極的な取り組みとしては、アンチエイジング、ロボット工学に関する研究機関の設置、また科学知識を一般に普及させるための MOST チャンネルの設置を考えている。

(2月22日 Nation 紙)

#### ■チュラロンコン大学・マヒドン大学、単位互換及び共同プログラムの提供へ

国の研究活動にかかるリソース、特に研究資金、研究者、ハイテク機器に関しても昨今限られた数となっている。これはタイにおける研究活動の潜在的な可能性にとって問題である。それゆえ、大学間の協力が不可欠であると Supot Hannongbua チュラロンコン大学理学部長は述べた。マヒドン大学の Prasit Phalitpholkarnphim 研究担当副理事もこの意見には同意しており、シンガポール国立大学がタイの大学より進歩しているのはタイの大学が互いに競争することのみ集中していることに起因すると考えている。それゆえに、チュラロンコン大学とマヒドン大学は互いに協働し、教育プログラムを提供して、分析的、批評的思考を開発する。最終的には二つの大学から学位を受けられるようなジョイントプログラムの創設を目的とする。

Sakorn Mongkolsuk マヒドン大学理学部長は、チュラロンコン大学とマヒドン大学は初期段階として合同で同じコースを教え、二つの大学での単位互換と全ての学生レベルにおいて管理が必要であると述べた。リサーチ・プレゼンテーションのための会議を学部 4 年生や大学院生のために実施することも良い考えである。上記の通り、今後は大学間の競争よりも連携を一層推進すべきである。

(3月4日 タイ教育省)

#### ■マヒドン大学、チュラロンコン大学、2013 年の Times Higher Education 誌による「The World Reputation Rankings」においてトップ 250 大学の一つに

マヒドン大学、チュラロンコン大学は、2013 年の Times Higher Education 誌による「The World Reputation Rankings」において、ともに世界 201-250 位となった。マヒドン大学とチュラロンコン大学はともにタイの大学で本ランキングに最も頻繁に選ばれる 2 校である。

“The World Reputation Rankings” は大学の教員による評価によってランキングが決定するものである。

ハーバード大学を首位とし、マサチューセッツ工科大学、ケンブリッジ大学がトップ 3 の大学となった。これらの 3 大学は昨年と同様の評価を受けている。また、日本、シンガポール、中国、香港、韓国及び台湾から合計 14 校がトップ 100 にランクインしている。東京大学は 9 位だった。

2012 年度と比べると、東南アジアの大学はシンガポール国立大学が 22 位となり、南洋理工大学が 81-90 位から 71-80 位に順位を上げている。

これらの機関がトップ 100 に入ったことは、非公式ながらマヒドン大学やチュラロンコン大学もトップ 100 にランクされた可能性を示しており、実際にタイの 34 機関が選ばれているが、100 位にランクされるための十分な数を満たさなかったとのことである。

このランキングを鑑みると、タイは世界の最上級の大学に対してベンチマークとなることが出来ただけでなく、近隣諸国に対しても、これらの国々の今後の実践方針について検討させ、タイについては成功の処方箋として解釈されることが出来たのではないかと。

評価を上げる大学には一般的に二つのキーポイントがある。1) 世界の最上級の教員を引きつけ、保有することに積極的に取り組むこと 2) ブランチキャンパスを含めて多くの国々における物理的な存在感を示し、真にグローバルな足跡を残すこと。これらを実践することにより、真にグローバルな機関となることが出来るだろう。

公式なトップ 100 大学のリストは下記の通り。  
[www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings](http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings)

(3月5日 Nation 紙)



## ■コンケン大学、ASEAN 共同体への準備

Kittichai Trairattanasirichai コンケン大学学長は、シンガポールにおける ASEAN20 大学が参加する会議に参加した。本会議では 2015 年の ASEAN 共同体開始により、教育市場も競争的かつボーダーレスになることに対する協力関係の構築について議論された。全 ASEAN の大学の強固な協力関係に加え、それぞれの大学が欧米の大学に対抗するために独自のブランドネームを創造することが求められている。

コンケン大学については、次の三つの分野についての専門化と特徴化を図る。1) 熱帯地域での健康、2) 熱帯地域での農業、3) メコン川周辺の農業 これらは ASEAN の大学間で協力関係強化および地域社会での無償教育の開設の主要な要因となり得るだろう。

この会議の後、マレーシアの一線級の研究大学がコンケン大学との医学での協力を示した。

コンケン大学は以前 ASEAN の大学とは異なる共同研究プロジェクトを有していたが、他の大学とのプロジェクトを多く創設することによってこれを拡大することを期待すると同時に、10 の ASEAN の大学とのネットワーキングの構築、タイ国内ではプリンスオブソンクラ大学とも協力を推進する予定である。

(3月13日 タイ教育省)

## ■タイ教育省、ASEAN 共同体に向けて教育の動員準備

2013年3月14日、Phongthep Thepkanjana タイ教育大臣及び Phuangphet Chunlaiad 大臣補佐官は ASEAN 共同体の開始に伴うタイの教育の動員を準備するために、教育省常任理事会に出席した。教育動員会議は二つのワーキンググループに分けられ、ひとつは教育大臣が議長を務める行政委員会、もう一つは副大臣が議長を務める運営委員会である。

タイ教育省の ASEAN 共同体への戦略は教育に関する5つの主要分野で構成される。すなわち、1) 教育への資源集中、2) 人的資源への投資、3) 適切な労働倫理、4) 情報技術、5) 科学技術の応用利用の向上である。これらは ASEAN 共同体に向けての教育開発及び国際教育ハブの開発という二つの主要なプロジェクトとして推進される。

ASEAN 共同体は国家的課題の一部であり、教育省下の5関係機関は本課題を成熟するために連携しなければならない。さらに、これらの機関は他の省庁とも協力し、国家の枠組みの策定について協力しなければならないと大臣補佐官は述べた。例えば、ASEAN 諸国が求めるカリキュラムの創設、人材育成、英語能力及び近隣諸国の言語だけではなく ASEAN 言語のスキルをもった教員人材育成を実施することで、将来的に教員は、学生及び地域社会により多くの知識を広めることが可能となるだろう。

(3月18日 タイ教育省)

## 日本学術振興会バンコク研究連絡センターの位置



日本学術振興会バンコク研究連絡センター/JSPS Bangkok Office

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand

tel +66-2-661-6533 fax +66-2-661-6535

Website: <http://jps-th.org>

Email: [jpsbkk@jps-th.org](mailto:jpsbkk@jps-th.org)